

PSアワード 応募説明会

PSアワードへの応募の振り返り

2024年5月31日

YKK AP株式会社
品質本部 商品保証企画部
河端 茂

1.YKK APについて

- ・会社概要、企業精神など

2. 2017年までの振り返りと2017年以降の取り組み

- ・生活者検証の取り組み
- ・実環境検証の取り組み
- ・フィールドエンジニア(FE)の取り組み

3.ご参考まで

- ・審査結果フィードバックの活用(生活者検証例)
- ・応募に際し、心がけたこと
- ・受賞後の変化(社内)
- ・受賞後の変化(業界)
- ・製品安全コミュニティ、製品安全関連イベントへの参加など

ファスニング事業・AP事業を中核としたグローバル事業経営体制



世界72カ国/地域 111社(536拠点)

○ 国内18社(236拠点)

○ 海外93社(300拠点)

※2023年12月末



窓



玄関ドア



エクステリア



ビル



リフォーム



産業製品

YKK AP NEW VISION "Evolution 2030"

Architectural Productsの進化で、 世界のリーディングカンパニーへ

3つの方針

地球環境への貢献

脱炭素化・循環型社会実現
に向けた仕組みづくり

新たな顧客価値の提供

高断熱化、高付加価値化、
トータルビジネス

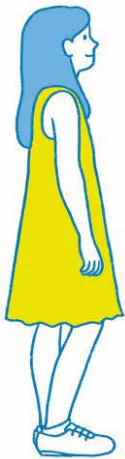
社員幸福経営

「善の巡環」に基づく幸福経営

Architectural Products

社会を幸せにする会社。

— We Build a Better Society Through Architectural Products —



いつの時代も私たちは、建築文化の根幹にある

Art(美しさ)とTechnology(技術力)にこだわり続けながら、

アーキテクチャルプロダクツ

好奇心と探究心により、価値ある建築パーツ「Architectural Products」を生み出し、

人と自然、未来をつなぎ、幸せな社会を実現します。

創業時からの想いを受け継ぎながら、これまで以上に
“事業を通して社会を幸せにすること”に取り組んでいきます

YKK精神

「善の巡環」

他人の利益を図らずして自らの繁栄はない

事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方は。

経営理念

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



事業を繁栄させるための基本的な考え方で、経営の使命・方向・主張を表現しています。

コアバリュー



絶えざる「挑戦」を通じた
人づくり



顧客にとって価値ある
「品質」を実現する
モノづくり



「信用・信頼」が結ぶ
社会との長期にわたる強い
関係づくり

社員一人ひとりが大切に、実践する価値観であり、日々の行動の基準となるものです。

YKKグループ品質憲章制定(2007年12月)

YKKグループ品質憲章

YKKグループは、社会・マーケットの要望に対して、一貫生産の考え方に基づき品質にこだわりを持って商品を提供してきました。時代は変わっても、この考え方を大切にしていける姿勢を明確にするために、YKKグループ品質憲章を制定しています。

YKKグループ品質憲章

YKKグループは創業以来、「品質」を経営の中心に置き、すべての事業活動を展開してきました。YKKグループは、お客様との“信頼”を大切にし、品質への“こだわり”をもって商品・サービスをお届けします。

◆お客様との信頼

商品のみならず、販売、アフターサービス等全ての面において、お客様の声や社会・市場のニーズを敏感にかつ真摯に受け止め、お取引先と連携して、お客様と社会に心から満足していただける商品・サービスをお届けします。

◆品質へのこだわり

お客様の立場にたった最高の品質をこだわりをもって追求し、一貫生産の考えに基づく世界共通品質を実現します。

2007年12月

製品安全宣言

YKK APは、製品の安全確保を最優先課題として取り組み、お客様に安全・安心をお届けし、YKKグループが追求しているコアバリューの一つに掲げられた「品質にこだわり続ける」という価値観を実践するため、製品安全行動指針を次のとおり定め、『製品安全』活動を積極的に推進してまいります。

製品安全行動指針

1.法令等の遵守

事業を展開する地域・分野で定められている製品安全に関する諸法令、安全規格等を遵守します。

2.製品の安全確保

製品の安全に関する公的基準に加え、生活者の視点に立った自主基準を定め、製品自体の安全確保を図るとともに、製品を使用されるお客様、製品の取扱事業者に適切な情報を提供することにより誤使用や不注意による事故の防止に努めます。

3.製品安全推進体制の構築

製品の企画・開発・設計の段階から、製品の出荷・組立・施工・使用・廃棄に至る各段階におけるリスクを分析し、その低減に努めるとともに、素材、部品等を含め製品安全推進に必要な体制の構築を図ります。

4.自主行動計画の策定と実践

製品安全に関する自主行動計画を策定・運用し、継続的な改善を行うことにより、製品安全に関する意識の浸透を図り、製品安全文化の醸成・向上に努めます。

5.製品事故情報の収集と開示

製品事故等(事故のおそれを含む)の情報について、お客様、取扱事業者、行政機関等から積極的に収集するとともに、迅速かつ適切な対応と情報提供を行います。

6.製品事故発生時の対応

製品事故が発生したときは直ちに事実確認を行い、法令等に基づき関係機関へ報告を行うとともに、原因究明を実施し被害者の救済を図り、再発・拡大の可能性があるときは、適切に情報提供を行い、製品回収その他の事故の再発・拡大防止に必要な措置を講じます。

7.製品安全推進体制の監査と見直し・改善

製品安全に関する各行為が関連法規、公的基準、自主基準等に則り適正に行なわれているかについて、定期的に監査を実施します。また、この指針や自主行動計画は市場や社会意識の変化、科学技術の進展等を踏まえ、必要に応じて見直し・改定を行います。

建材の商流と契約関係

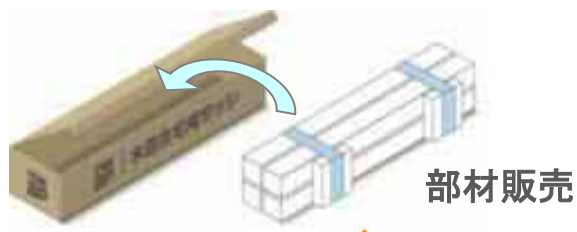
流通店

一般的商流の例  : 商品の流れ、  : 契約関係

YKK AP

窓・サッシの開発・製造

生活者(お客様)



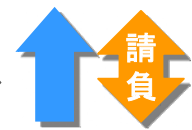
部材販売



※ 邸別のトレーサビリティが困難



引き渡し

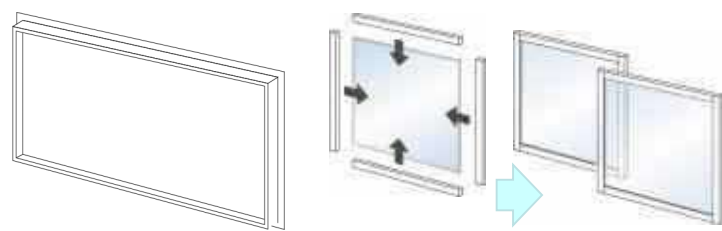


請負

流通店

窓・サッシの組立・調整

※ 納入商品を
邸別管理
(流通店任せ)



枠フレームの
組立

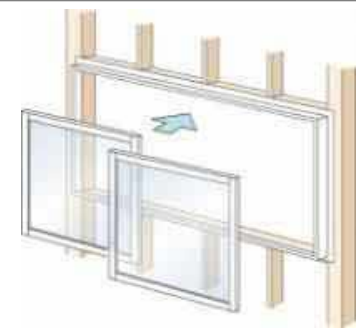
戸(障子)フレームと
ガラスの組立



売買

建築会社

窓・サッシの施工



枠の施工
戸(障子)の吊りこみ

YKK AP

売買契約
部材納入

流通店

売買契約
完成品納入

建築会社

請負契約

お客様

1.YKK APについて

- ・会社概要、企業精神など

2. 2017年までの振り返りと2017年以降の取り組み

- ・生活者検証の取り組み
- ・実環境検証の取り組み
- ・フィールドエンジニア(FE)の取り組み

3.ご参考まで

- ・審査結果フィードバックの活用(生活者検証例)
- ・応募に際し、心がけたこと
- ・受賞後の変化(社内)
- ・受賞後の変化(業界)
- ・製品安全コミュニティ、製品安全関連イベントへの参加など

受賞ポイント

取り組み

2017年以降の取り組み

2010年 受賞ポイント

ユーザーの生活行動を踏まえた製品開発の実施
製品の実環境試験によるリスク検証
施工業者の意識啓発による事故防止

2014年 受賞ポイント

生活者検証の強化
安全に使用・メンテナンスするための情報伝達
複合的な環境要因によるリスク検証

2017年 受賞ポイント

フィールドエンジニア参画による現場の実情を反映した安全設計の実現
社内外の関係者への製品安全実現のための技術力の確実な伝承
製品安全文化を継続的に育む仕組みと実践

生活者検証の取り組み (価値検証センター)

実環境検証の取り組み (価値検証センター)

フィールドエンジニア (FE)の取り組み

施工技能修練伝承塾

エリア品質会議

製品安全学習エリア

生活者検証の取り組み

高齢者の事故予防、実証実験
プロユーザー向けマニュアル強化
エンドユーザー向け動画マニュアルの提供

実環境検証の取り組み

防災、減災に向けた検証技術の構築
施工検証による現場実態の理解と技術者育成
解析技術活用によるコロナ禍における最適換気提案

FEの取り組み

フィールドエンジニア(FE)社内資格制度運用
現場調査、組立・施工作業のポイント動画制作

PS(パートナーズサポート)スタジオ開設

うちの安全ドリル(うんこドリル)によるお子様への注意喚起
商品ユーザー向けアプリ「APポケナビ」による情報提供
明治大学リバティアカデミー「安全学」支援

取り組みの深化

取り組みの拡大

2017年以降の取り組み(4つの視点)

視点1. 安全な製品を製造するための取り組み

- ・高齢者の事故予防、実証実験(深化)
- ・防災、減災に向けた検証技術の構築(深化)
- ・施工検証による現場実態の理解と技術者育成(深化)
- ・フィールドエンジニア(FE)社内資格制度運用(深化)

生活者検証の取り組み
(価値検証センター)

視点2. 製品を安全に使用してもらうための取り組み

- ・プロユーザー向けマニュアル強化(深化)
- ・現場調査、組立・施工作業のポイント動画制作(深化)
- ・エンドユーザー向け動画マニュアルの提供(深化)
- ・解析技術活用によるコロナ禍における最適換気提案(深化)
- ・PS(パートナーズサポート)スタジオ開設(拡大)
- ・エクステリア施工の強化(拡大)
- ・うちの安全ドリル(うんこドリル)によるお子様への注意喚起(拡大)
- ・商品ユーザー向けアプリ「APポケナビ」による情報提供(拡大)
- ・施工技能修練伝承塾の継続

実環境検証の取り組み
(価値検証センター)

フィールドエンジニア
(FE)の取り組み

視点3. 出荷後に安全上の問題が判明した際の取り組み

- ・社内体制、規程に基づく事故発生時の真摯な対応継続

視点4. 製品安全文化構築への取り組み

- ・明治大学リバティアカデミー「安全学」支援(拡大)
- ・エリア品質会議の継続
- ・製品安全学習エリアの活用継続

価値検証センター開設

価値検証センター (Value Verification Center) 2007年5月24日: 黒部市に開設

生活者の
行動観察



実環境の
再現検証

生活者検証

製品化の過程や使用中に想定される様々なリスク評価を実施

実環境検証

■ 日常生活での使いやすさ



■ さまざまな人による使いやすさの検証 ~ 身体能力に着目 ~



■ 暴風雨



■ 厳しい寒さ・暑さ・日差し ■ 輸送の振動・衝撃

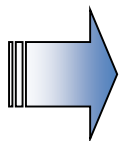


価値検証センターの取り組み(生活者検証)

2010年 受賞ポイント ユーザーの生活行動を踏まえた製品開発の実施

2010年度
視点1

生活者の
・誤操作
・誤使用 を検証



誤操作による安全性、
誤使用時の安全性を確認



■日常生活での使いやすさ

さまざまな人に出入りする状況を再現してもらい、使い勝手を検証。
どのような状況でも使いやすい工夫へつなげています。



■安全とデザイン

新しい操作機構の商品の安全性と使い勝手を検証。意匠性を保ちながら安全に使える工夫をしています。



■メンテナンスのしやすさ

窓の拭き掃除や網戸の脱着をしてもらい、メンテナンスのしやすさを検証。生活者モニターからの意見を取り入れ、分かりやすい表示ラベルの工夫や改善をしています。



■非常時の操作性

停電した場合を想定して、住宅用電動シャッターの非常開放操作と復帰操作をもらい、使い勝手を検証。分かりやすい表示ラベルの工夫や改善をしています。

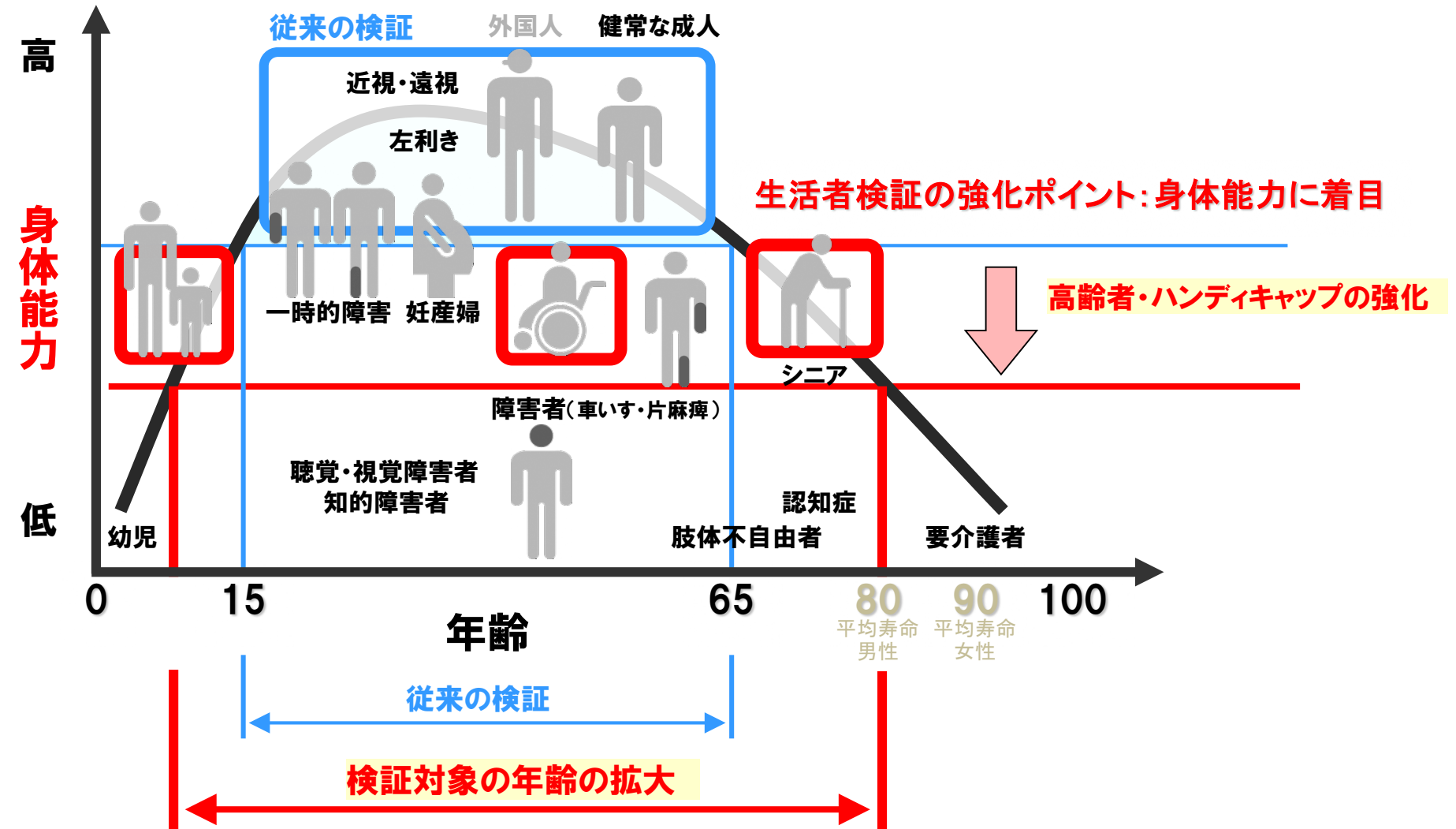
価値検証センターの取り組み(生活者検証)

2014年度
視点1

生活者検証の強化(2010年以降)

・高齢者・ハンディキャップへの検証強化

高齢者・ハンディキャップの検証基盤の整備 → 検証の実践、製品安全対策を商品で実現



価値検証センターの取り組み(生活者検証)

2014年 受賞ポイント 生活者検証の強化

・高齢者・ハンディキャップへの検証強化

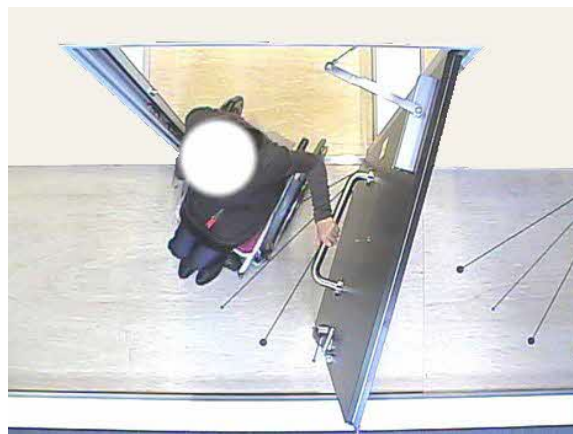
高齢者・ハンディキャップの検証基盤の整備



検証の実践、製品安全対策を商品で実現

高齢者(後期高齢者)の検証事例

車いす常用者の検証事例



・生活現場での検証

モニター宅へ出向き

生活者検証のノウハウでヒアリング



弊社施設外で検証

「お宅訪問ヒアリング」の事例



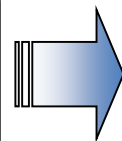
価値検証センターの取り組み(実環境検証)

2010年 受賞ポイント 製品の実環境試験によるリスク検証

2010年度
視点1

公的性能基準がない項目について、社内実用基準を定め、

- ・**耐久性**
- ・**破壊モード** を検証



耐用年数経過後の安全性、
破壊時の安全性を確認



■ 暴風雨

台風と同等の強風または雨の吹き付けを再現し、部材の強さ、水の浸入抵抗を検証。暴風雨などの脅威から暮らしを守る安全・安心な商品とします。



■ 厳しい寒さ、暑さ、日差し

凍結状態、寒暑繰返し等を再現し、戸の動き部材伸縮または断熱性や遮熱性を検証。寒さ・暑さから暮らしを守る快適な商品とします。



■ 輸送の振動・衝撃

トラック輸送の振動やフォークリフトの衝撃を再現し、包装材によるこすれ傷、部品の破損などを検証。商品のダメージをなくす工夫をすると共に、環境に配慮した簡易な包装とします。



■ 取付け

実際の工事業者による取付けまたは取付け誤差を与えた状態を再現し、性能・機能を検証。商品が本来備えている性能を十分に発揮できるような取付けとします。

価値検証センターの取り組み(実環境検証)

2014年 受賞ポイント 複合的な環境要因によるリスク検証

2014年度
視点1

「輸送」から「使用」段階の再現も加えた耐久性を検証 ➡ 経年劣化事故の防止
例:浴室折戸

個々の検証確認

振動試験
(トラック輸送想定)



評価

落下試験
(人の荷扱い想定)



評価

開閉繰り返し耐久試験
(実使用想定)



評価

衝撃開閉試験
(破壊状態の確認)



評価

実際の使用環境に近い形での検証へ

複合検証

振動試験
(トラック輸送想定)



落下試験
(人の荷扱い想定)



開閉繰り返し耐久試験
(実使用想定)



- ・UB設置
(密閉空間)
- ・温湿度
- ・薬品
- ・砂・泥 など

衝撃開閉試験
(破壊状態の確認)



総合
評価

価値検証センターの取り組み(実環境検証)

2017年 受賞ポイント 関係者への製品安全実現のための技術力の確実な伝承

2017年度
視点1

ベテランの経験・知見を若手に伝授

価値検証センターに商品品質検証室を設置(2016年度)

品質目標設定チェック

品質目標管理シート	
品質項目	妥当性確認
品質記録	
指摘	回答
ベテランによる チェック	

若手とベテランとの実検証



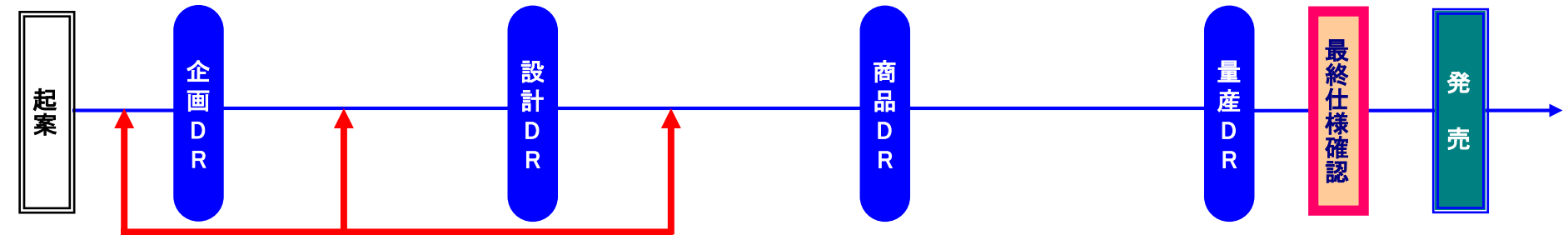
若手へのフィードバック



品質リスクの早期発見・低減を
目的にベテランによるチェックを
加え、適切な品質目標を設定

製品安全・品質確保の視点で、
検証の要否・手法・結果を共有
して、適切に早期判断

若手設計者に必要な
製品安全設計ノウハウを
本質・根拠に基づいて教育・指導



経験豊富な技術者が、開発上流で若手開発技術者の相談に応えたり、若手開発技術者の目標設定状況をチェック
などを行うことにより、製品安全の仕組みの伝承を行なう

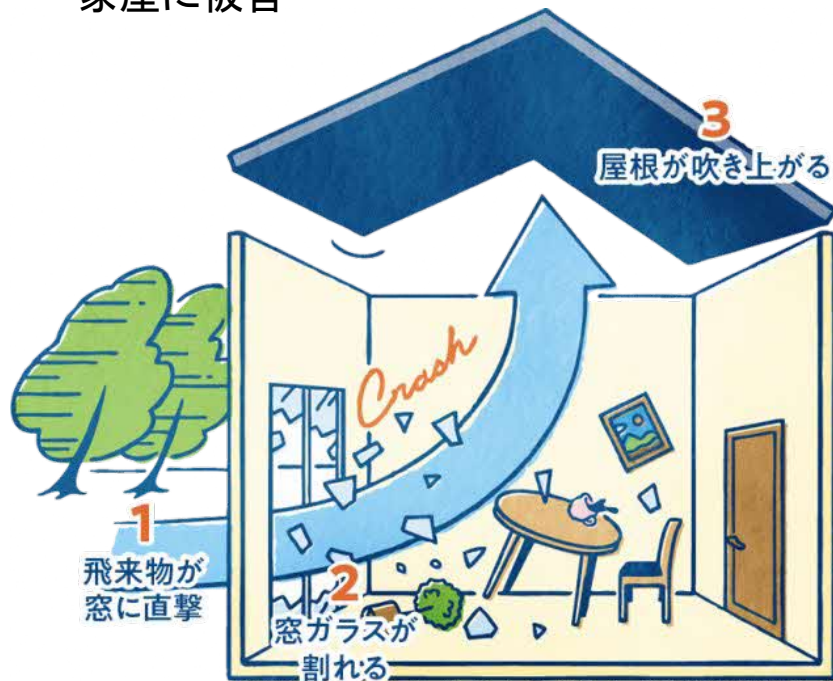
価値検証センターの取り組み(実環境検証)

実環境検証: 甚大化する自然災害への取り組みについて

2017以降
視点1

■ 強風による被害

大型化する台風
強風による飛来物で窓のガラスが破損し、
家屋に被害



■ 飛来物を想定した検証

窓、シャッターの飛来物の業界及び社内基準なし

窓、シャッターの飛来物による検証実施



■ 窓、シャッター飛来物 社内評価基準の制定(2019～2021年度)

台風や竜巻による飛来物の被害を最小限に抑える製品の検証とその評価基準の制定

防災、減災に向けた検証技術の構築推進

ビルダーへの教育

- ・全国の支社にフィールドエンジニア(FE)を配置 (2003年度～)

FEの主な役割: 取扱い事業者への技術支援、不具合対応

※ 現場の情報を商品、施工要領書などの改善に活用

技術支援の例

樹脂窓 現場施工研修会

- 【目的】
- ・樹脂窓の特性の理解
 - ・樹脂窓の施工品質の向上
 - ・現場の情報収集



座学



施工

納材店事業所品質監査

- 【目的】
- ・品質管理の徹底
 - ・安全、コンプライアンス遵守
 - ・作業者へのヒアリングからの商品完成度向上



品質管理記録



組立状況、作業環境

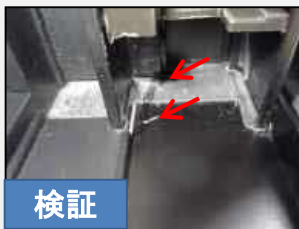


評価のまとめ

不具合対応の例

引違い窓 漏水不具合

- 【対応内容】
- ・不具合の検証・原因特定
 - ・処置方法の提案
- 【対策】
- ・組立・調整方法の指導
 - ・品質管理(トルク)の指導



検証



原因特定



対策

2010年度
視点2

ビルダーへの教育

・集合研修実施（～2010年頃）

正しい組立・搬入
正しい調整

正しい施工

『窓の品質確保のための必須条件』

組立、施工、仕上げ調整に関する研修施設「E-STAGE」を全国11箇所に設置



実際の建築現場を想定した環境での研修が可能

2010年度
視点2

ビルダーへの教育

・集合研修実施（～2010年頃）

正しい組立・搬入
正しい調整

正しい施工

『窓の品質確保のための必須条件』

品質技術研修



施工研修

サッシ施工



マニュアルではなく、
「現物」による研修

新商品技術研修



電動シャッター責任施工研修



寸法測定



新人研修



2014年度
視点2

ビルダーへの教育

・E-STAGEでの集合研修から実現場での施工研修にシフト

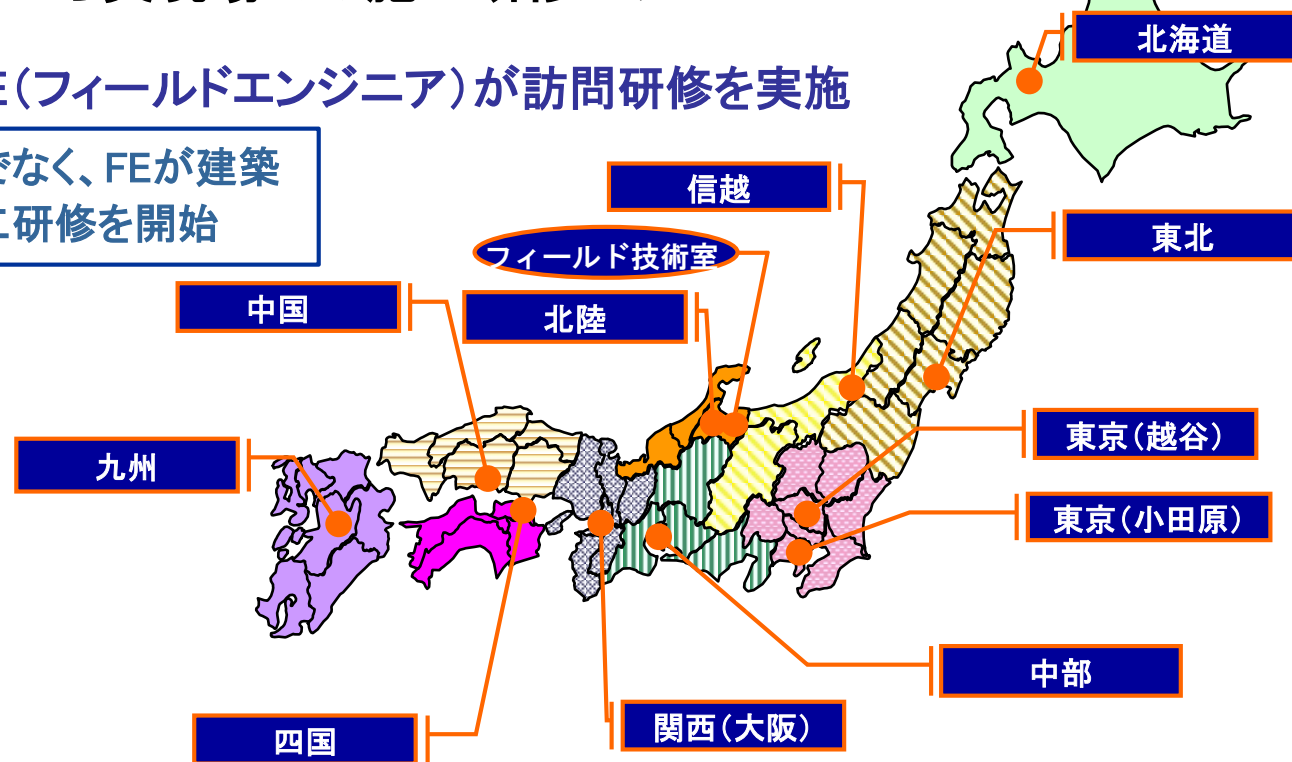
全国10支社に配置した、FE(フィールドエンジニア)が訪問研修を実施

弊社施設での集合研修だけでなく、FEが建築現場へ出向いて実施する施工研修を開始

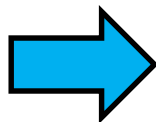
【背景】

住宅の省エネ化推進

- ・断熱(樹脂)サッシの普及促進
- ・住宅の断熱工法の多様化



E-STAGEでの施工研修



実現場での施工研修



フィールドエンジニアの取り組み

2017年度
視点1

2017年 受賞ポイント

フィールドエンジニア参画による現場の実情を反映した安全設計の実現

技術支援

2010年度 受賞ポイント:
「施工業者の意識啓発による事故防止」



不具合対応



【建築業界の変化】

- ・ 建築従事者の高齢化・労働者不足
- ・ 工法の多様化
- ・ 商品構造の変化

特集 Special Feature

品質崩壊の足音

最後の砦の
施工管理まで弱体化

日経アーキテクチャ 2014. 5. 25号特集

Q 今後、日本で
建築品質トラブルが増えると思うか



【社内の変化】

- ・ 現場状況を知らない
開発関係者が増加

フィールド情報を開発の上流で共有

2016年度～

開発関係者の現場知識向上

現場の実情を収集・把握しているFEが、
開発段階のDRに参加する体制

効果

- ・ 組立・施工性への適切な設計配慮
- ・ メンテナンス情報発信の発売同期化

若手設計者がFEに同行し一緒に業務を行い、
自ら現場を体験する研修を設計者教育に組み込み

受講者
の気付

- ・ 現場での商品の取扱い・施工の実情を理解
- ・ 現場実情－YKK APからの指示との乖離を実感
- ・ 不具合の悪影響・顧客の商品に対する不満を実感

FEが各地の組立・施工事業者に製品の組立・施工の研修を蓄積してきたことが、変化の先取ができるまでに発展

1.YKK APについて

- ・会社概要、企業精神など

2. 2017年までの振り返りと2017年以降の取り組み

- ・生活者検証の取り組み
- ・実環境検証の取り組み
- ・フィールドエンジニア(FE)の取り組み

3.ご参考まで

- ・審査結果フィードバックの活用(生活者検証例)
- ・応募に際し、心がけたこと
- ・受賞後の変化(社内)
- ・受賞後の変化(業界)
- ・製品安全コミュニティ、製品安全関連イベントへの参加など

審査結果フィードバックの活用(生活者検証例)

2010年度プレゼン資料

2010年 受賞ポイント ユーザーの生活行動を踏まえた製品開発の実施

生活者の誤操作・誤使用を検証

誤操作による安全性、誤使用時の安全性を確認

■日常生活での使いやすさ

さまざまな人出入りする状況を再現してもらい、使い勝手を検証。どのような状況でも使いやすい工夫へつなげています。

■安全とデザイン

新しい操作機構の商品の安全性と使い勝手を検証。意匠性を保ちながら安全に使える工夫をしています。

■メンテナンスのしやすさ

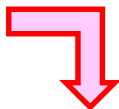
窓の拭き掃除や網戸の脱着をしてもいい検証。生活者モニターからの意見を取入れる工夫や改善をしています。

■非常時の操作性

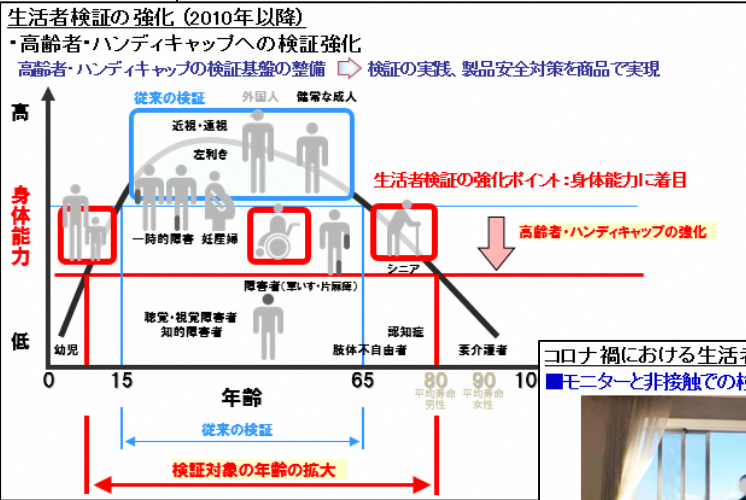
停電した場合を想定して、住宅用電動の復旧操作をしてもいい、使い勝手を検証の工夫や改善をしています。

【2010年度フィードバック】

「高齢化社会に向けて、高齢者対策、ハンディキャップを持った人への製品安全対策を更に強化して欲しいと感じました」



2014年度プレゼン資料



【2014年度フィードバック】

「・・・生活者検証の取組においても、製品の仕様や設置場所のリスクによっては、条件を複合化したような検証を実施すると、新たな気づき・・・」



コロナ禍における生活者検証の課題

■モニターと非接触での検証手法構築・実践 ～オンラインお宅訪問～

検証事例「カギの操作」 「下のレールの部分に砂埃が溜まる」「100円ショップの掃除用ブラシで掃除する」

価値検証センター内での検証に加え、生活現場を重視した検証を推進

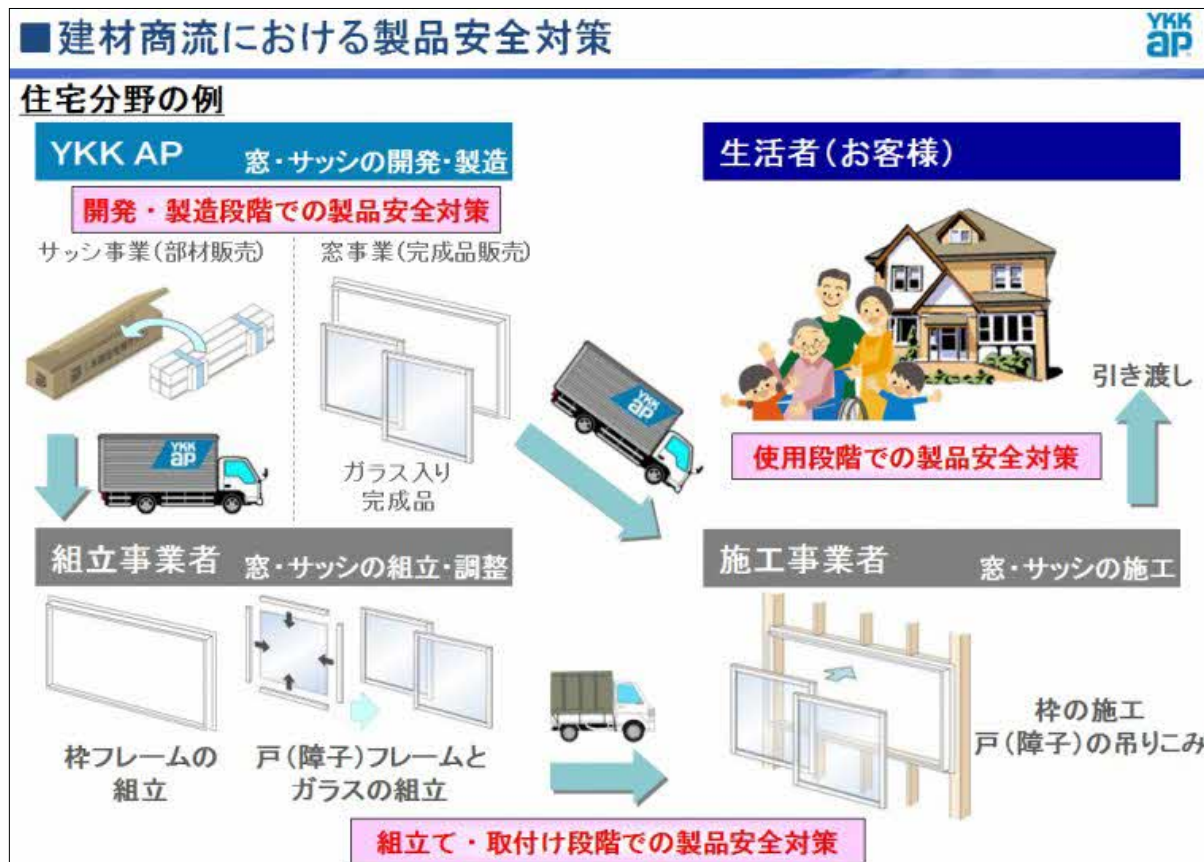
応募に際し、心がけたこと

審査委員は、様々な分野から選ばれた方々
弊社・業界の常識は、世の中の非常識



課題の背景を理解していただく
業界用語の使用を控える

例) 適切な組み立て、取り付けを取扱い事業者に行っていただく仕掛けづくりの取り組み
⇒ 別事業者の役務を経て、住宅の引き渡し時点の安全が確保される
⇒ 建材の商流を平易な言葉で説明



受賞後の変化(業界)

サッシメーカー大手といわれる4社が、PSアワード受賞企業
一般社団法人 日本サッシ協会(サッシメーカーなどが会員)も 2018年度特別賞受賞

商務流通保安審議官賞

2016 (平成28) 年度

大企業 製造事業者・輸入事業者部門

三協立山株式会社 三協アルミ社



事業内容: ビル用建材、住宅用建材、エクステリア建材の開発・製造・販売
所在地: 富山県高岡市
設立: 1960年
代表者: 三協立山株式会社 代表取締役副社長
三協アルミ社 社長/藤原 彰三
従業員数: 4,167名(2016年11月)
URL: <http://alumi.st-grp.co.jp/>
受賞歴: 初受賞

三協アルミ

優良賞

2017 (平成29) 年度

大企業 製造事業者・輸入事業者部門

不二サッシ株式会社



事業内容: カーテンウォール、ビル用サッシその他建築材料の製造・販売・施工、各種アルミニウム製品の製造・販売・施工
所在地: 神奈川県川崎市
設立: 1930年
代表者: 代表取締役社長 吉田 勉
従業員数: 844名(2017年3月)
URL: <http://www.fujisash.co.jp/>
受賞歴: 初受賞

FUJISASH

**2014 (平成26) 年度
2023 (令和 5) 年度**

優良賞

大企業 製造・輸入事業者部門

株式会社LIXIL

<http://www.lixil.co.jp/>

LIXIL



■事業内容: 建材・設備機器の製造・販売およびその関連サービス業
■所在地: 東京都千代田区
■設立: 2001年
■代表者: 代表取締役社長 兼 CEO/藤森 義明
■従業員数: 14,187名(2014年3月)

経済産業大臣賞

**2010 (平成22) 年度
2014 (平成26) 年度
2017 (平成29) 年度
ゴールド企業認定**

大企業 製造事業者・輸入事業者部門

YKK AP 株式会社



設立: 1957年
代表者: 代表取締役社長 堀 秀亮
従業員数: 12,600名 [国内連結] (2017年4月)
URL: <http://www.ykkap.co.jp/>
受賞歴: 第4回 経済産業大臣賞
第8回 経済産業大臣賞

YKK AP

「製品安全」を軸に各社連携の業界団体活動

製品安全コミュニティ、製品安全関連イベントへの参加など

・業種の異なる企業との情報交流

受賞企業同士の交流機会活用

他社の取り組みを学ぶ

自社で不足している部分の確認

など

「我以外、皆我が師なり」

取り組みの向上を目指します

引き続きよろしくお願いいたします。

参考：製品安全関連施設のご紹介

2017年 受賞ポイント 製品安全文化を継続的に育む仕組みと実践
過去の製品事故情報の共有と社員教育

2017年度
視点4

価値検証センター内に『製品安全学習エリア』の開設(2015年12月)ー過去の経験の風化防止

1. 目的 【技術者】 過去の製品事故から対策事例を学び、安全配慮の意識を高めて事故再発を防ぐ
【一般社員】過去の製品事故の歴史を学び、製品安全の重要性を再認識する

2. 概要



- 1. 導入部 YKK APの製品安全に対する姿勢と設計思想について学ぶ
- 2. 品質年表 製品設計ガイドラインを学んだ後に品質年表にて過去の製品事故の歴史と社内取り組みを学ぶ
- 3. 現物展示 ・過去の製品事故の詳細・原因・対策について学ぶ 動画:5事例
・展示ケースには事故品の現物を展示し、見て・触れる事ができる
- 4. 体感コーナー 「挟まれ」事故が発生した玄関ドアの現物にて事故品と改良品の構造の違いを確認する
- 5. 私の誓い 製品安全学習エリアを訪れて、自分の製品安全に対する思いを記入する

年 月 日

部署名:

氏名:

『私の誓い』

我々の開発する商品が
お客様の安全を脅かす
リスクがあるということを
再認識しました。

今後は、この気持ちを忘
れずに開発に取組みます。

・新入社員教育の一環として使用

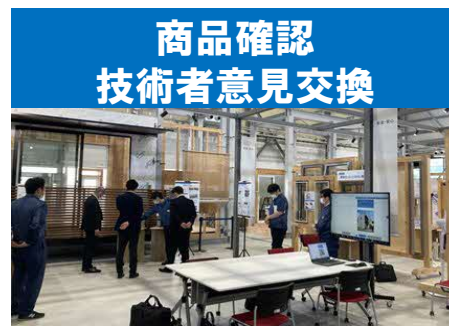
住宅設計者への情報提供

2017以降
視点2

■ 2017年度PSアワード受賞 審査委員コメント（抜粋）

製品寿命の長いアルミサッシの安全性は設置される位置や維持管理の容易性等と大きく関係する。非常に多くの製品群の中から適切な商品選定がなされるよう、住宅設計者への情報提供も、今後期待します。

パートナーであるプロユーザーの方々が抱える個々の課題や要望に応じて、YKK APが持つ技術と品質に基づく提案から課題解決方法を具現化し、一緒に快適で安全・安心な住まいづくりを目指すため、「パートナーズサポートスタジオ(PSスタジオ)」を開設(2019年3月)。



2017以降
視点2

住宅設計者への情報提供

■「パートナーズサポートスタジオ」3つの提案ゾーン

<T1>トレンドゾーン

実物大住宅モデルにて、窓・玄関ドア・エクステリアまわりの考え方やコーディネートに3つのテーマで提案

- ①家一棟トータルデザイン（住宅外観を美しく、機能的に演出するコーディネート提案）
- ②ローエネコンセプト（快適な室内環境のための光・風・熱の上手なコントロールを提案）
- ③窓まわりのネットワーク化（IT技術を活用した窓まわりの安全・安心を提案）

<T2>テクニカルゾーン

商品の品質や技術を3つのテーマで提案

- ①安全・安心（使用時や施工時に関わる安全と安心に関する技術を提案）
- ②施工（省施工、リフォーム、開口部耐震補強などの現場課題を解決する技術を提案）
- ③商品品質（樹脂窓を中心に商品品質への理解を深めていただく提案）

<T3>トライアルゾーン

工法をテーマに省施工など木造建築現場の課題に対応する新たな取り組みを提案



<T2> テクニカルゾーン

■住宅設計者の課題解決に向けた技術3施設連携

【YKK AP R&Dセンター】
技術情報創出・商品開発



【価値検証センター】
商品価値の評価・検証



【パートナーズサポートスタジオ】
技術と品質に基づく提案



